

2024年8月26日

デジタルアーカイブフェス2024—活用最前線！—

主催：内閣府知的財産戦略推進事務局、国立国会図書館

You, Unlimited

Ryukoku University

龍谷大学図書館

デジタルアーカイブとジャパンサーチ連携



龍谷大学図書館

デジタルアーカイブ・資料保存 担当

随念 佳博 / Yoshihiro Zuinen

本日の内容

1. 龍谷大学図書館とデジタルアーカイブについて
2. ジャパンサーチとの連携について
3. 貴重資料画像データベースとジャパンサーチの活用
4. 本学デジタルアーカイブの役割と意義
5. ジャパンサーチへの期待

1-1. 龍谷大学、龍谷大学図書館、大宮図書館

■龍谷大学

江戸時代（1639年）の西本願寺の学寮に始まる

■3キャンパス

・深草キャンパス（京都）

・大宮キャンパス（京都）

西本願寺に隣接。大宮図書館は西本願寺の敷地内

国宝や重要文化財、古典籍資料等の貴重な資料を数多く所蔵

➡ 図書館デジタルアーカイブの拠点

・瀬田キャンパス（滋賀）



大宮キャンパス本館（国指定重要文化財）



大宮図書館

1-2. 大宮図書館デジタルアーカイブの経緯

1998年 大宮図書館の貴重書紹介を目的に「貴重書画像データベース」を公開

※以降、2011年度までは年間20~40タイトルを公開

2009年 「図書館所蔵資料の日常的デジタル保存・情報発信事業」を開始

2010年 原資料の保存（IPM等）と資料デジタル化（内製化）についての計画作成

2012年 CMS導入、貴重資料画像データベース「龍谷蔵」への名称変更とHPデザイン変更等を段階的に実施

デジタル撮影の内製化を開始 ※以降、年間400~600タイトルを公開

2021年 CMSリプレイス（ジャパンサーチ連携の事前準備含む）

2022年 クラウドでの新サーバ構築

2023年 3/13 NDLサーチ連携を開始

4/3 ジャパンサーチ連携を開始

ジャパンサーチ連携関連の調整

1-3. 貴重資料画像データベース「龍谷蔵」

■貴重資料画像データベース「龍谷蔵」



URL : <https://da.library.ryukoku.ac.jp/>

■内容

- ・龍谷大学図書館が所蔵する古典籍等の貴重資料を中心に[全頁画像データを順次公開](#)するサイト
- ・文学、真宗、仏教、医学、理学、芸術・芸能、哲学・宗教、歴史、社会科学等に分類

■公開タイトル数など

- ・2024年7月末時点で、[5,388タイトル](#)、[12,699冊](#)、[628,758カット](#)を公開

■特徴

- ・ジャパンサーチ連携済み ※NDLサーチ経由（2023年4月～）
- ・全データIIIF（=International Image Interoperability Framework）対応済み（2023年3月～）
- ・IIIFビューワは3種類から選択可
 - ① [Universal Viewer](#)（標準）、
 - ② [Mirador](#)、
 - ③ [Lime Viewer](#)（システム導入業者開発）

1-4. 所蔵資料とデジタル化対象資料

■主な対象資料 (順次撮影中)

◎ 本学で貴重書もしくは準貴重書と指定している資料 (主に古典籍)

→ 貴重書 (856タイトル、2,305冊)、準貴重書 (1,038タイトル、1,860冊)

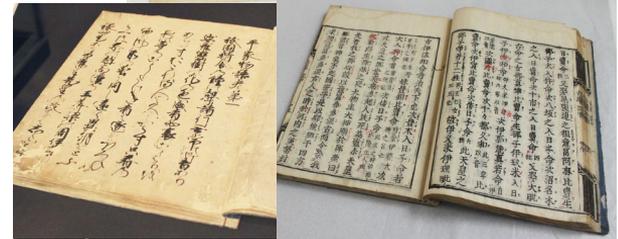
◎ 西本願寺歴代宗主の旧蔵書である写字台文庫 → (10,173タイトル、34,268冊)

○ 貴重書に相当するその他のコレクション → (数量未確認)

△ その他古典籍等 → (タイトル数不明、117,582冊)

上記の中で以下に該当するものについては状況に応じて優先対応

- ・ 研究・教育等の目的で学内外から公開依頼がある資料
- ・ 掲載・放映等の依頼がある資料
- ・ 龍谷ミュージアムでの展示や調査、図録掲載等で利用される資料
- ・ 図書館特別展観での展示や図録掲載等で利用する資料
- ・ 形態や状態によって取り扱いが難しい資料 (軸物や劣化資料等)



※数値は2024年8月現在の概数です。

1-5. デジタルアーカイブ体制

■デジタル化作業

- ・ 内製による撮影作業

※一部のみ外部委託



■人員体制

- ・ 全体調整

担当職員 2名 (デジタルアーカイブ、資料保存、貴重書・古典籍等関連、特別展観等…)

- ・ デジタル撮影

業務委託スタッフ 1名 (常駐)、学生スタッフ 8名 (同時に撮影作業ができるのは2名)

※学生スタッフについては、文化遺産学、日本史学、東洋史学専攻の大学院生が現在の主な構成 (学芸員資格有)

- ・ メタデータ (書誌データ) 作成および公開登録

業務委託スタッフ 2名 (他業務と兼務)

※各スタッフの人数は2024年8月現在のものです。

2-1. ジャパンサーチ連携までの経緯

2018年・「ジャパンサーチ（仮称）phase.0 分野横断統合ポータル構築に向けて」説明会后に国立国会図書館に問い合わせ

- ・貴重資料画像データベース保守業者と相談 → 課題多く、再検討することに…

2021年・CMSリプレイス（ジャパンサーチ連携やIIIF対応の事前準備含む）、全メタデータの書誌情報修正

- ・NDLサーチとの連携方式は、この時点ではファイル提供（TSV/CSV）による連携で検討

2022年・クラウドでの新サーバ構築（新サーバ公開に向けた各種調整と検証）※旧サーバと平行運用

- ・WebサーバとIIIF画像サーバを新規構築、CMSを新サーバへ移設
- ・画像データ（主にJPEG）をPTIFF変換する機能を追加、IIIFビューワの調整、OAI-PMHの調整、etc…
- ・ジャパンサーチ連携（NDLサーチ連携）に向けた国立国会図書館との調整（～2023年4月）

2023年・3/1 新サーバの公開開始（新旧サーバ切り替え）

- ・3/13 NDLサーチ連携

- ・4/3 ジャパンサーチ連携



連携完了

2-2. ジャパンサーチ連携の概要

■連携内容

- ・図書館は書籍分野のつなぎ役である[NDLサーチを経由](#)

- ・連携方式：[OAI-PMH（定常収集：週1回実施）](#)

返却形式：DC-NDL（RDF）

- ・二次利用条件：

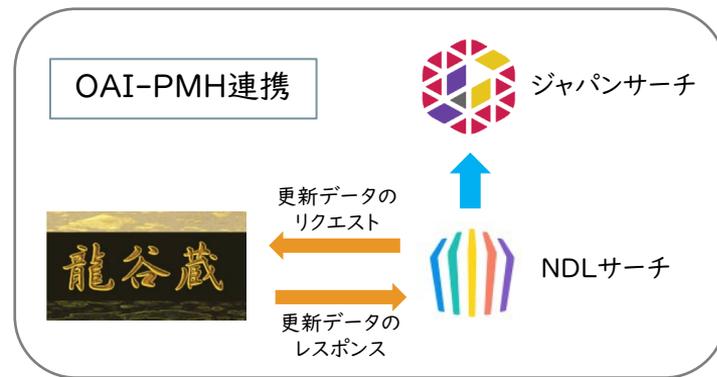
[メタデータはCC0](#)（クリエイティブ・コモンズ・ライセンス）

[サムネイルとコンテンツは「著作権なし - 契約による制限あり」を選択](#)

- ・連携対象：貴重資料画像データベースの[全公開資料](#)

■連携コスト

ジャパンサーチ連携に関わるコストについては、CMSリプレイスやクラウドでのWebサーバおよび
IIIF画像サーバ新規構築など、同時期に実施した一連の開発や作業に含むため、個別の算出はできず…。



2-3. 連携のメリット

■メリット

- ・ポータルで関連する資料を一元的に検索できることは相互に利益
- ・貴重資料画像データベースへの入口増、発信力・発見可能性の向上
- ・貴重資料画像データベースの学内外での認知度向上
- ・新たな利用者層獲得につながる（と期待）
- ・予算獲得の際の好材料
- ・貴重資料画像データベースとOPAC間のメタデータ整合作業の契機になった（=情報の質向上）
- ・連携機関としてジャパンサーチのHP内に表示されるようになる

3-1. Web展観とジャパンサーチギャラリー①

■大宮図書館特別展観について

- ・例年、特別展観として大宮キャンパス本館（重要文化財）で、図書館所蔵資料の展示イベントを開催

【参考】2023年度特別展観「紫式部の物語」の入館者数：[開催8日間で871名](#)



■コロナ禍とWeb展観

- ・コロナ禍以降は、対面での開催が難しく、2020年度と2021年度の特別展観はWeb上での実施を模索

➡ [Web展観として開催](#)

- ・2022年度と2023年度は、対面展観とWeb展観の両方を開催

【参考】2023年度特別Web展観「紫式部の物語」アクセス数：[展観開始から半年間程で約1,200ユーザ](#)

3-1. Web展観とジャパンサーチギャラリー②

■Web展観とは (https://library.ryukoku.ac.jp/Guide/page_id23)

- Web展観の仕組みは貴重資料画像データベースと連携するシンプルな構造
- Web展観のHPは外部委託による作成 → 当然コストがかかる

■Web展観からジャパンサーチギャラリーへ

- Web展観の仕組みとジャパンサーチギャラリーの仕組みが似ている（やりたいことは同じ…）
- コスト削減のために試行的に作成してみることに…
- 公開済みギャラリー

2022年度開催 特別展観「[戦（いくさ）と平和](https://jpsearch.go.jp/gallery/libryukoku-347VbOwZVNm)」（<https://jpsearch.go.jp/gallery/libryukoku-347VbOwZVNm>）

2023年度開催 特別展観「[紫式部の物語](https://jpsearch.go.jp/gallery/libryukoku-8b41bpEV3k0)」（<https://jpsearch.go.jp/gallery/libryukoku-8b41bpEV3k0>）

■今年度秋の特別展観からは、ジャパンサーチギャラリーを同時公開予定！

【開催予定】「中世本願寺の文学—『平家物語』と和歌を中心に—」

期間：2024年10月18日（金）、10月21日（月）～10月27日（日）、場所：大宮キャンパス本館展観室

3-2. ギャラリーの作成について

■作成してみた感想など

- そんなに難しくはないです（連携機関向けのマニュアルもあり）
- どんなことができるかは他のギャラリーを見てるとなんとなくわかる（気がする…）
- 意外と簡単にできた理由
 - ① Web展観と同じような体裁のものをつくるというイメージ（見本）があった
 - ② 必要な資料はすべてIIIFで公開&ジャパンサーチ連携済みであった
 - ③ 書誌情報や解説文、挨拶文、ポスター画像などの必要な素材はWeb展観から流用できた
- 公開すればSNS等で広報してもらえるのが大変ありがたい（要連絡）
- 過去の特別展観図録をギャラリーに…（検討中）

4-1. 本学デジタルアーカイブが果たしている役割

■教育・研究での利活用

- ・広く国内外からのアクセス

【参考】貴重資料画像データベース「龍谷蔵」アクセス数

2023年度実績：[世界58カ国](#)、[約2万1千ユーザ](#)

■論文・出版物等掲載、翻刻、TV放映、展示、調査等の多くの場面でデータ利活用

■コロナ禍における公開サポート

■龍谷ミュージアムや大宮図書館特別展観での利活用

■大学としてのアピール

- ・広報目的での資料画像データ利活用
- ・学内外に価値のある資料を多く所蔵していることを認識してもらえる機会

4-2. 本学デジタルアーカイブを提供する意義

■ デジタルアーカイブの目的である「保存と活用」の両立を実現する

- ・ デジタル化による「利活用促進」
- ・ デジタル化による「予防的な保存 (=バックアップ)」
- ・ 原資料の過剰な利用を抑えることによる「原資料の保存」

■ 多くの貴重な資料を所蔵している機関の社会的責務としての発信

■ 資料を死蔵させずに活用する責任

■ 利活用されることにより、新たな価値の創出や魅力につながる可能性

■ 利活用から原資料保存への意識向上という好循環をつくり出し、遺すという意味をつないでいく

5-1. ジャパンサーチに期待すること

「ジャパンサーチって何ですか？」 (まだまだ知らない学生が多い…)



- ・機関ごとに独自運用されてきたデジタルアーカイブが、分野という垣根も超えてつながる画期的なツール
- ・ジャパンサーチ・アクションプラン2021-2025として様々な取り組みを推進中

- ・様々な分野の新たな連携機関を増やすための大きな課題である
「人材面」「コスト面」「環境面」等についてのフォローアップやサポートにも期待



今後、更なる

**連携機関の拡充 (= 連携データの拡充)
ジャパンサーチの認知度向上に期待**

2024年8月26日

デジタルアーカイブフェス2024—活用最前線！—

主催：内閣府知的財産戦略推進事務局、国立国会図書館

龍谷大学図書館

デジタルアーカイブとジャパンサーチ連携

ご清聴ありがとうございました。

龍谷大学図書館

デジタルアーカイブ・資料保存 担当

随念 佳博 / Yoshihiro Zuinen



**RYUKOKU
UNIVERSITY**